

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077300244		
法人名	有限会社 ひがし		
事業所名	グループホームたかみ		
所在地	うきは市浮羽町高見1750-1		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果確定日	平成26年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

時期に合わせて花見やドライブをして外出をしている。また季節ごとイベントをしており、例えばそうめん流しや七夕もちつきやもぐらたたき、四季を楽しんで過ごして頂いている。ホーム内の畑で取れた野菜を使った食事

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

耳納連山を遠方に望み、自然豊かな浮羽町の中で営まれる「グループホームたかみ」は今年で開設から8年を迎える。環境を活かして季節ごとの外出も行きやすく、周囲を田畑に囲まれる中事業所の菜園も大きい。野菜作りでは季節の旬のものを採り入れており、収穫から入居者と協力して、栽培には智慧を借りて入居者と一緒になって取り組んでいる。真横を走る鉄道は豪華客車「ななつぼし」が走るコースにもなっており、週に何度か見られる雄姿は非常に喜ばれている。地域との交流も積極的でグループ事業所の多目的ホールを活用して、敬老会やカラオケ大会なども催し、年1回の「たかみ祭り」への参加も多く盛況である。入居者も活動的で、なるべく声掛けして居からフロアに出て交流するようにしてもらっており、100歳を超える方も元気に過ごされていた。周囲の自然と、明るさ、木の暖かみを活かした飾りなどに優れており、これからも地域と共に益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内をに理念を掲示して理念を共有している。	開設時に管理者と職員が一緒に作った理念があり、事務所とホールに掲示され、定例会などで確認している。より馴染み深くなるようにと見直しについての話し合いも行っており、職員も理念の内容を理解して入居者との関わりにつなげている。	現在の理念の内容も共有しているが、よりわかりやすく簡潔に理念が伝わるように、今の職員との話し合いや、行動指針、実践方針などの具体的な行動まで入れ込まれた理念を検討されてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春にたかみ祭りを開催して地域の方々にきていただき交流している。	周りの畑の収穫物を差し入れしてもらったり、事業所で作ったおはぎなどをおすそ分けすることもある。地域の小中学校の実習受入もしており、今年の「たかみ祭り」ではボランティアの協力の下、子供達の来場も多く盛況だった。地域の保育園に見学に行ったり、文化祭に作品展示をしたりと地域との相互交流が積極的になされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の方を抱える家族の悩みを聞いたり、徘徊ネットワーク作成への協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、委員の意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。	会議には地元議員、駐在所、市役所、民生委員などが参加されており、状況報告やヒヤリハット報告などを行っている。事業所だよりに関するのアドバイスをもらったり、身体拘束に関するの意見ももらって改善にもつなげた。議事録は玄関先において閲覧公開しており、今後はおたよりにも議事報告をいれこむことを計画中である。	地域代表などの参加は多いが、家族参加や関わりを増やすために、おたよりに会議日程を案内したり、行事との同日開催や他事業所との相互参加など、より発展的な会議運営がなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当の方にも運営推進会議に参加していただき意見を取り入れている。様々な立場の意見をいただくことで、独りよがりにならない介護を目指して、協力していこうと思う。	担当職員は毎回運営推進会議にも参加しており、介護申請時に訪問したり、地域包括からも入居紹介を受けることもある。春の「たかみ祭り」の時にも声掛けして、ボランティアで来てもらうこともあった。担当課とは顔なじみになっており、何かあった時の相談などもしやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束に関する研修に積極的に参加し、職員も勉強している。	基本的には玄関施錠はせず、見守りは付き添いで対応するが不穏時にはすることもある。事業所のユニット間での行き来などは自由である。夜間のみ転落防止に四点柵の使用があるが、家族とも相談の上、経過観察、見直しを行っている。毎年拘束関連の外部研修にも参加し、研修報告も行い、スピーチロックなども意識してケアにつなげている。	やむを得ない拘束の経過記録や見直しに関して、書類様式は準備されていたが活用が不十分だったので、見直しのカンファレンスの徹底などの取り組みが望まれる。

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者関連の身体拘束についての研修等の機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回人権・権利擁護に関する研修を全員が受けられるよう機会を持ち学んでいる。	権利擁護に関しての研修に毎年参加しており、もともと、成年後見制度を活用されていた入居者が3名いる。研修によって職員も基本的な理解をしており、以前利用を検討する方に対しての説明なども行った。必要なときは外部の関係機関や専門家とも協力して対応する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の変更がある場合は話し合いの場を設けて、理解と納得を得るように努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランを立てる場合は家族や本人の意向を踏まえて、またそれに沿った介護を行っている。当苑を見学にくられた方々には説明している。運営会議でもそのことは申し上げている。	面会の頻度に多少の差はあるが、プランの見直し時には話し合い、少ない家族とは電話やFAXなどでもやりとりしている。毎月、担当職員からお手紙による報告も行い、敬老会やお祭りの時には家族にも参加してもらっている。要望にあった通院送迎に関しての意見なども話し合って説明を行っている。	あがった要望に対しての話し合いなどを行っているが、さらに家族からの意見を聞き取る機会を増やすために、家族参加の行事の呼びかけを増やしたり、家族会などの検討をされてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回定例会ケア会議をひらき、職員の意見をそれぞれきいて、いろんな意見や提案を聞く機会を設け、ケアプランに反映している。	毎月の定例会には全職員が参加し、ユニットのケアカンファレンスも同日に行う。会議でも活発に意見を出し合い、介護ベッドの導入にもつながった。管理者との相談もしやすく、挙げられた意見に対しての取り組みも積極的になされている。	日頃から相談や意見も挙げやすいが、職員の目標設定や自己評価の管理を行ったり、管理者や施設長との個別面談の機会をもってはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは管理者会議で様々な意見を聞く機会を設けている。また管理者を通して個々の状況を聞き、給料水準や賞与に反映している。働きやすい環境を作るように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用面接にいたっては法令遵守をしており、人権尊重を行っている。またそれぞれの特技を活かして委員会の配置を行っている。	毎月の定例会とは別に勉強会も行い、外部での研修にもほぼ全員の職員が参加している。職員の年齢の幅も広く、採用に男女差もなく協力して働いている。7つの委員会活動があり、年間のローテーションでそれぞれ役割をもって業務を担当し、花を生けたり、手芸や編み物など特技を活かして業務にあたっている。	

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に話し合い、指導を受け入居者に対する尊重が守られている。研修などにも参加している。	市の人権研修や、地域の事業所連絡会での人権学習などに参加しており、外部講師なども活用している。参加した職員は研修報告を行い、資料と共に回覧して、事業所内での周知につなげている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会が開催されているが、都合により参加できない場合もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会があり、親睦会や研修に参加できるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望をよく聞き、ケアプランに上げて、毎日実現できるように取り組んでいた。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近況は毎月手紙やたかみだよりを郵送している。またこまめに電話連絡をして状況をお伝えしているようにし、家族の要望も取り入れている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の希望の方には、モニタリングを行い、本人の希望のお話しをお聞きして、また同時に家族の意見も取り入れながら、ケアプランをたてそれによってケアを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調をみながら、食事の配膳や盛り付けや洗濯物たたみや各個人の部屋の掃き出しなどをお手伝いいただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の送迎等はお手伝いをお願いしている。また面会にも来やすい体制をとって、苑で行われるイベントにはご家族も参加していただき一緒に楽しめるようにしている。		

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで外出した時に、住んでいた場所が近くにあったら、一緒に行くようにしている。アルバムなどを苑に持ってきてもらい一緒にみて思い出話をきいている。近所の人からの面会も随時受け付けている。	昔からの地域の「同業寄」の知人達が訪れてきたり、一緒に外出したり、ドライブで行きたいところや自宅周辺まで連れて行く支援を行っている。家族との外出や一時帰宅することもあり、個別ケアなどによって臨機応変に対応している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルでの配席を考え、口論などがあつた場合はスタッフが間に入り、みんなで話ができるように務めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に取組みはしていないが、今後検討していきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に声かけし、思いや意向を把握できるように努めている。困難な場合は家族に情報を聞き、把握できるように勤めている。	アセスメントや基本情報は年に1回見なおしている。アセスメントの様式も以前のものから改良し簡略なものに切り替えた。本人からの発語が少ない方に対しては、レクリエーション時などの反応を見て、意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より使用していた身の周りものを使ってもらうようにしている。また、ペースは入居者に合わせているが、苑での家事など、得意なもの好きなものは手伝ってもらうようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者に無理のないように思い思いに過ごしていただけるようにしている。散歩を希望する場合は無理のない程度にスタッフが付きそう場合もある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファを行っている、職員が本人家族からの意見要望を聞き、全職員でアイデアや意見を交換し現状に即した介護計画を作成している。	入居し1,2名につき一人の担当制にしており、担当者は家族への報告やケアプラン実施の総括を行っている。計画作成担当もモニタリングを毎月行い、ユニットごとのカンファレンスでも話し合っ情報共有している。家族からは面会時や電話などで意向を聞き取り、プランの見直し時の担当者会議では専門職からも意見を聞き取っている。	ケアプラン見直し時に家族からも意見を頂いているが、照会した内容や日付の記載とともに、漏れ無く担当者会議に生かされていくことが期待される。

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にもっと気づきや工夫が必要、努力していかなければいけないところである。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理容は月1回で訪問があり、歯科受診も訪問を取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着として色々課題はあるが、努力をして、町内の祭りや行事にも参加できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の送迎の協力をうけながら、支援している。	提携医が2箇所あり、希望する場合は往診を受けられる。他科受診の際は原則、家族の送迎によって通院しているが、必要な場合は事業所が支援したり同行も行っている。訪問看護との連携もあり、毎日健康管理をしている。通院時には家族からも情報を聞き取り、医療連携ノートに記載して、申し送りして情報共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、医療連携で看護師が来るので、身体状況を伝えたり相談したりしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメントを病院にお渡ししている。情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年齢も高くなってきた方も多くおられ、ご家族の方にも説明してきたはずだが、十分に理解できていなかったケースもあった。	看取り方針があり、必要時には家族にも説明し同意を頂いている。希望があれば最期まで支援する方針で、提携医や訪問看護とも連携をとっているが、今までに看取った事例はない。以前は家族と認識の違いもあったが、今は説明を注意して行って理解を得ている。グループ事業者では看取った事例もあり、必要時には連携をとって対応する。看取りに関する研修も行った。	

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応訓練を定期的には行ってはいないが、研修がある場合はシフトを考慮し順番で毎年講義を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1度色々な設定で避難訓練を行っており、運営推進委員の方々にも参加していただいた時もあり協力体制もとれている。	半年ごとに消防署が立ち会って、避難、消火、通報などの総合訓練を夜間想定で行っている。運営推進会議でも参加を呼びかけているが、まだ地域の参加には至っていない。訓練の様子は毎月のお便りでも報告し、スプリンクラーや備蓄物などの防災設備も準備されている。	地域との協力体制を作っていくために、引き続き家族や地域住民への訓練案内や報告がなされていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをする様に努めている。	定例会議の際に、入居者に対しての尊重や言葉掛けの内容などを注意しあい、理念と運営方針の見直しをすることで、ケアの振り返りも行っている。個人情報やファイルや記録などはキャビネットに保管し、写真の利用なども事前に同意を得たものに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き入れ支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを考慮し、希望に添える様に努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいみだしなみを本人さんの希望になる様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事を心がけ配色なども考え工夫している。準備、片付けなども、利用者と一緒にやっている。	事務所の菜園で採れた季節折々の野菜などを提供し職員が調理している。準備や後片付けや収穫なども出来る入居者は率先して手伝い、買い物と一緒にいくこともある。メニューは委員会で1週間毎に作成し、イベント時の外食や、誕生日には食べたいものを提供しており、職員も一緒に食卓を囲むことで和気あいあいと食事を楽しんでいた。	

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量のチェックを毎食行っている。1人1人のリズムに合わせ食事の時間をずらす、工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄・口腔内の残物のチェックを行っている。又個人の状態に応じて訪問歯科診療も取り入れている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行っている。可能な限り布パンツで対応している。	入居者一人ずつの排泄チェック表があり、自立した方には後で聞き取って管理している。介助が必要な方にはパターンを把握して働きかけ、失敗のあった時にも周囲にわからないように配慮して支援している。状態に応じたパットなどの利用を心がけ、便秘の際も医師の指示を仰いで対応している。	自力排泄している方のチェックが出来たり出来なかったりだったので、可能であれば自分でチェックまでしてもらうなど、チェック表の活用を検討されてはどうだろうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行う。又、簡単な体操へ参加も促している。DRとの連携をとり、下剤の適切な服用も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本としているが、本人の意向、体調のバランスを考えて入浴を行っている。	基本的には希望があれば毎日で入浴が行え、屋から夕方にかけて実施している。更衣などもこまめに行い清潔にしており、拒む人にも無理にはせず、声掛けや担当を変えて働きかけている。浴槽の湯も適宜変えて綺麗にしており、ゆず湯など季節の入浴も楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンを考えて日中でもベッドで昼寝をして頂いたり、夜はゆっくり休めるようにやさしい光の夜光灯を使用している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてはスタッフ全員で確認している。症状の変化をDRIに伝えて対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、買い物をしたり、お酒を飲んだり、又天気のいい日は外出したりしている。		

H26自己・外部評価表(GHたかみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	知人や家族の送迎により外出を楽しんでいる入所者もいる。また、施設の買い物に同行してもらったり、ドライブの計画をたてて出かけている。	1,2ヶ月毎にユニット単体や全体でのバスハイクを行いコスモス園や紅葉、花見など季節ごとの外出機会も多い。庭先でお茶を楽しんだり、周囲の散歩やドライブ、軽食なども気軽に行き、車いすの方でも対応車両を使って同じように外出してもらっている。法人保有のバスもあり、遠方への外出などにも行き易い。	季節ごとの外出やドライブなどが気軽に楽しまれているが、家族などにも誘いかけてボランティア的に来てもらったりしてはどうだろうか。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は苑で管理をしているが、外出の際は個人個人で財布を持ち、買い物をする。全員ではない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、たかみ便りと共にご家族への手紙を書く入居者もいる。電話も自由にかけられるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者とスタッフで作った季節の折り紙などの作品を飾ったり、植物を置いたりしている。又個々にクッションを椅子に敷きゆつくり過ごしていただいている。	広いリビングの南向きの掃出窓からの採光も良く、ホール内は非常に明るく風通しも良い。ユニットの入り口にはそれぞれ柿と梨を模した木工細工が飾られ木の暖かみと相まって柔らかな雰囲気が出される。テレビ周りにはソファと、フラットな畳スペースあり、入居者が積極的にリビングで過ごせるよう、居心地のよい空間に配慮されている。建物周囲も開けており、ウッドデッキや菜園から自然の移り変わりが身近に感じ取られていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の数箇所に椅子やソファを置き、1人、又は数人のグループで集えるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たくさんのは置けないが、家族の写真やなじみのタンスなどを置き、落ち着ける工夫をしている。	各居室の表札もユニット名と同じ梨や柿の木工細工が模され、人によっては顔写真も貼って部屋の識別をしている。基本的にはフローリングだが、希望で和室にも変えられる。クローゼットと介護ベッド、手すりも付けられ、窓からの見晴らしもよく、持ち込みの品で思い思いの部屋づくりがなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	雑多に物を置かずに、車椅子の自走を可能にしている。浴槽・トイレの場所が分かる様に大きく書いている。配膳の手伝いが出来るよう全てに名前を書いている。		